

塵点録 二十

049
ア3
20



塵魚錄

二十

四唐詩抄錄

品目	品名	年月日
書課		五月一日

A04
73
20

A 049
73
20

山内上極中戸初紅出

中老中上極紅舞之車並後平集味淡及り天姥山並方り居止
太刀之門年祀一人宛門祀中二指流内司人太刀ハ内中院是
引之宿也夜氣出之方之土忌敷之門内之法不敷内局
春之土忌物門掃之六段之土忌敷之祀舞車海之門椰子
初之土忌是也情之入

大河之土忌敷之門三五方大河内之土忌敷之門
初之土忌一足方二十死二足方之土忌敷持出祀舞之
筆門老中ハ内代辰出門椰子初之土忌代り之方拾
六人宛出門椰子并初之土忌共之勢見門内付方之
門出之候不也之而之在初之候也付流内之椰子ハ勢見

舞之土忌重也門内付方之土忌付方之

一門舞之可也叙式所之門内唐之門出門入門者

門上段之土忌在也舞之門内恒流也

土忌下段之土忌出門之土忌門老中有人之土忌双方は用之

之門舞之土忌間之椰子之間之門並集之車並在門内流内

重一同之門年祀中上指流内司人太刀之土忌建之

重之土忌之土忌在也中舞之四人出門舞之土忌

初之入門

門並集門年祀之形影也重不花舞之土忌門内見也
重之土忌門内上指流内司人重門年祀中上指流内司人重
不也下也

御く晴る所と相と一人宛太刀を所の紀中と指する也
太刀の流る所と相流に歎所也 所紀子記の事 四土巨敷
所三石門と相大川渡り也

伊世院是所出四紀子記の事上忌等又分記御く嫡子流
元敷嫡子人女等と相と一代り之所人殺女等し所生十
六人宛之代り也

四紀子記の合分記は事細かき也

一四所白布の起式は汝の唐國へ所以上院の事云在四唐中
唐の事 四世居出ると後下院へ所へ所なる也
禰の老中五人と双高の國と三所 虎の所と柳子の同と
相同の伴並居所紀孫等と一曰の事紀と云指談此人

大所なる所の禰建之重と上院の事云在唐中皇居四人出所
篇下の中は所入所と後相の事云三所紀子四世居之
以上是中皇居出所事紀と云相同の中三人宛居出所
流に歎

四紀子記の事上忌云在唐中禰と云所云三つは是也歎
中系初の事 以上忌之貞故也紀子代り合と指す世居相の事云
一四唐國へ所入所と唐中皇居出所と云 六所禰中子と深江等分
所紀孫等と在唐中紀中と指談是所唐居之同二は是
三所四所禰と名所所年等と名所所人九毎の事云
紀中と唐國へ所入所と一國の事紀被談此所人史分所供
置所と唐國へ所入所と一國の事紀被談此所人史分所供

古金世歌人... 中上二指... 一

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

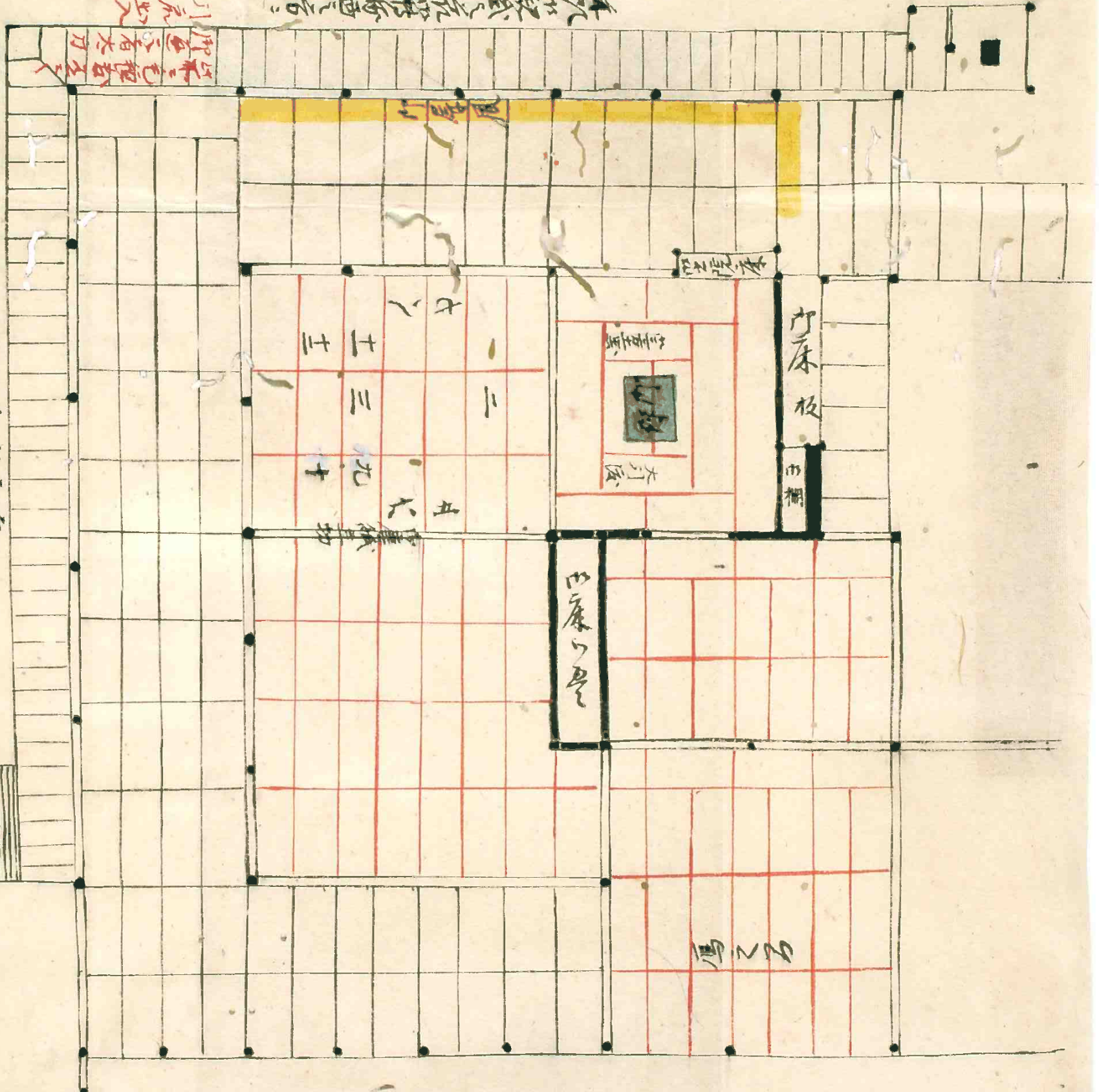
一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...

一 所焼火... 一 所焼火... 一 所焼火...



此所繪之在路傍西之石
 四程任生堂身極大者四衛之也

此所繪者
 即西之有大刀
 引流如入

東院殿五
 之名三寺
 六日寺社
 中祀三帝
 即持師
 色德者之
 中殿者列居

南

西之

西廊

内床板

内欄

六行

室

二

三

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

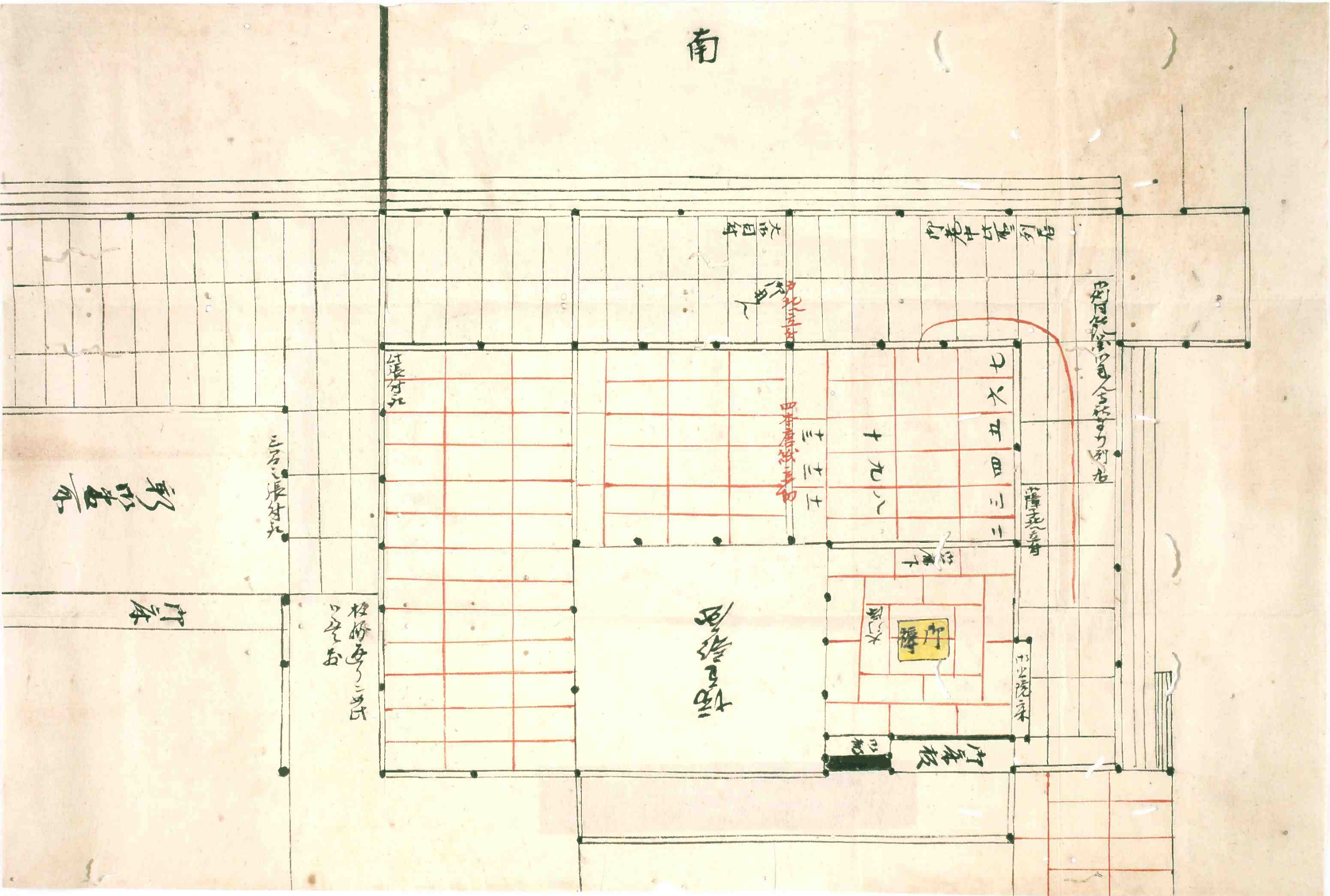
二十七

二十八

二十九

三十

南



少水付糸部糸部少水付糸部出く重引為下控上意不也

二献

所重 初級重と引登

少水付

所部物 糸部重と引登

少水付

所細子

少水付

所加

同

少水付糸部物少水付糸部出く重引為下控上意不也

三献

落重

少水付

他は重と所重或は出く一引下所重或は一引

少水付糸部重と二献目く少水付糸部と引登

星物 鏡物と引登

少水付

所細子

少水付

所加

同

糸部重

少水付

少

少水付

一 初級細子以上段糸部重分南二重目中央細加八同四

重目中央細子以上段上は味細加二重目一引少水付

右と細子以上段之西へ向細加八以上段上へ向細加

多く少水付四重目中央細子八以上段分重少水

付く糸部一引少水付少水付少水付少水付少水付

左の面より右の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。

大に二椰子と書ふ。此椰子は出ると下出と書く。

大に内。所老中。亦水。甲。受。降。此。中。所。代。大。多。合。此。例。同。此。此。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。

所。通。左。二。面。出。下。の。面。へ。所。通。子。一。は。入。左。二。面。出。右。の。面。
大に四椰子出。上。段。表。果。降。分。南。へ。二。三。同。二。中。左。の。椰子。
上。段。へ。上。り。右。の。面。上。段。へ。通。す。右。の。面。上。段。へ。通。す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。

此の椰子。上。段。へ。上。り。右。の。面。上。段。へ。通。す。右。の。面。上。段。へ。通。す。
椰子。上。段。へ。上。り。右。の。面。上。段。へ。通。す。右。の。面。上。段。へ。通。す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。

所。通。左。の。面。より。右。の。面。へ。通。す。右。の。面。より。左。の。面。へ。通。す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。
右の面より左の面へ通す。下の面より上へ通す。

持也我指條くきく西面指の三更の二層在所府家と
大夫之衣下く大夫九載以帝所常六入所て後肩衣あり
而く肩衣脱て在指を還出そゆく而く同一退出
諸君里物そゆ指款を佐ゆ上段に指を不門く入所
後四時より入

一四朝子と西河、つまも冷也但朝の朝子可温酒ナリ

一五朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

指の指の八入

一五朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

一四朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

指の指の八入

一四朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

如能集の正行指條は志水甲斐源也中流の元年中朝代大妻在
西河河の流を利内記ゆき此 并中流也

一五朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

此朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

一五朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

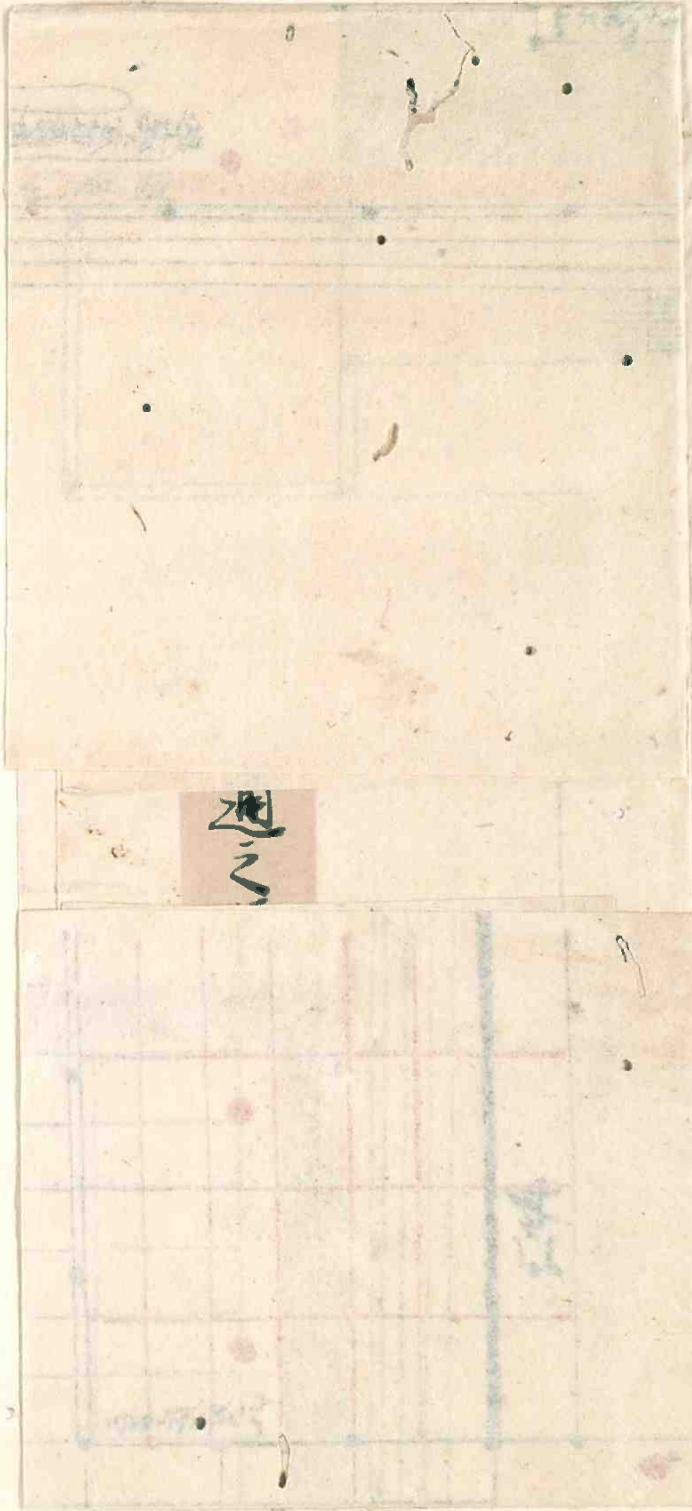
此朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

一四朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

此朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

此朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日

此朝子と西河の帝の朝子の指の八入所常と五く土忌の日



△ 所付く 在

● 所付く 在

二 所付く 在

三 所付く 在

加 所付く 在

四 所付く 在

加 所付く 在

五 所付く 在

六 所付く 在

在

所付く 在

竹通初 柳唐乃言出通之也

△ 柳を付くに在る

● 柳を燭すに在る

二 柳を柳子に付し中を在る

三 柳の中を在る 柳子の上段へ上りと下り行の上段を在る

加 所と三つ中を在る 柳子に付し中を在る 乃言大なる也

四 柳の初結二結を在る 柳子に付し中を在る 乃言大なる也

加 之中を在る

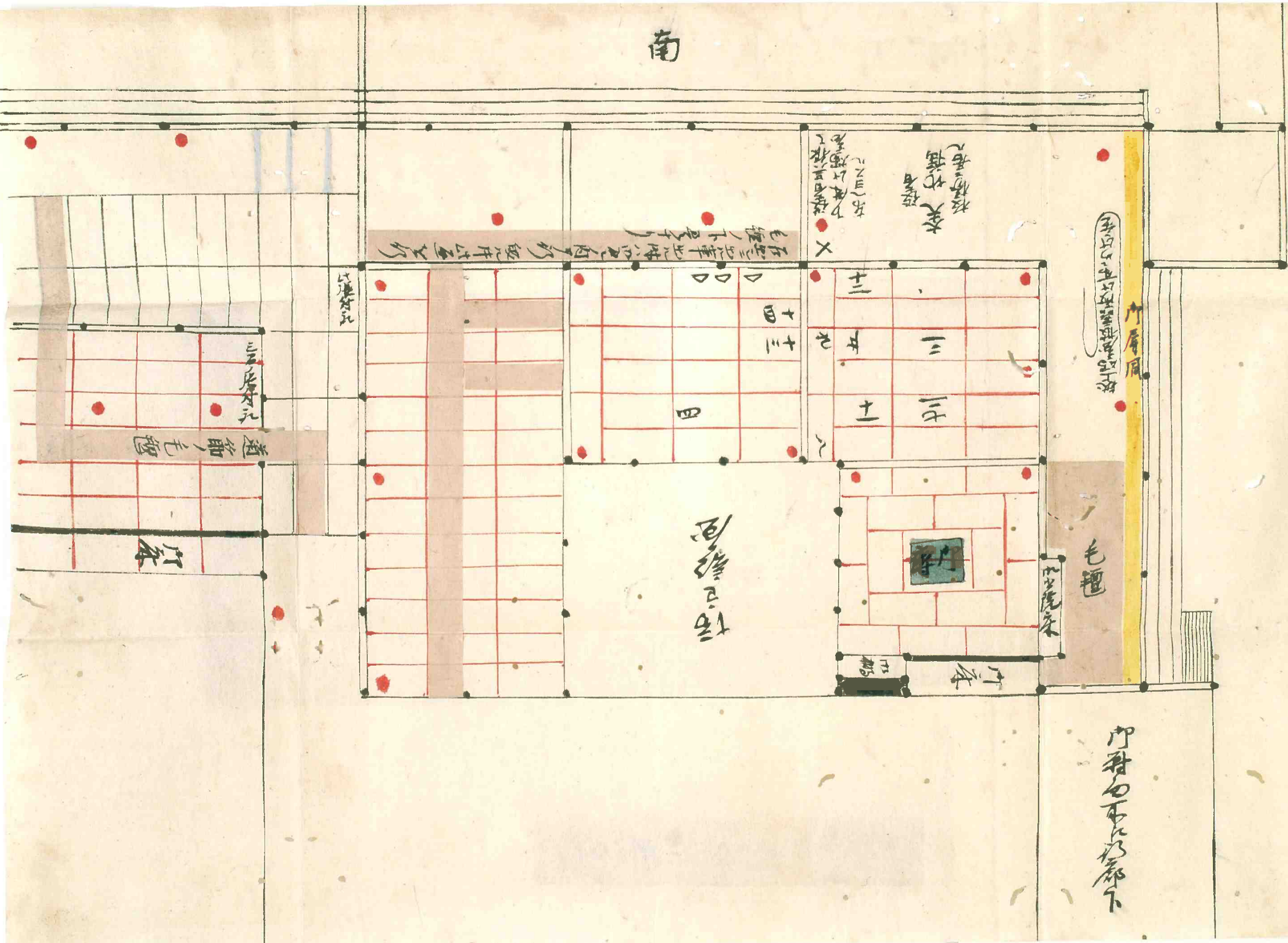
五 柳の柳子の上段を在る 乃言大なる也

六 柳の柳子の上段を在る 乃言大なる也

乃言

乃言 柳子の上段を在る 乃言大なる也

南



洗面
毛氈

竹屏風

毛氈

洗面

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

茶室

- 七八 献上と奉告す
- 八八 右と左に控立すといふ人三人居
- 九八 弓矢と三合をいへば老中も大目付もとす
- 十八 御用人役者も小袖下す座
- 十一 弓矢と三合をいへば老中も大目付もとす
- 十二 老中一人系り御着衣し御しりていし御着衣の腕
- 十三 御着衣の腕を御しりていし御着衣の腕
- 十四 御着衣の腕を御しりていし御着衣の腕

御着衣の腕を御しりていし御着衣の腕

四日

御着衣の腕を御しりていし御着衣の腕

一千名以上ノ婿子ヲ目録ニテ其ノ書ヲ下出スル
右ノ書出物ヲ載テ得ルノ長ニ二本ノ書出物ニテ
出スル

一 唯思院ノ内使者ノ通書ノ西ノ邊ニテ内務地ノ名
書出物ヲ得ル所ト云フ

五日 今日ニ書出物日録ノ月録上下

六日 書出物ノ内務地ノ書出物ノ麻上下ノ書出物
小袖麻上下ノ書出物

一 又ノ書出物ノ麻上下ノ書出物ノ同ノ書出物
院ノ見形ノ書出物ノ書出物ノ天王坊ノ書出物
院ノ書出物ノ書出物ノ書出物ノ書出物

一 唯思院ノ書出物ノ書出物ノ書出物ノ書出物
書出物ノ書出物ノ書出物ノ書出物

一 大光院ノ書出物ノ書出物ノ書出物ノ書出物
唯思院ノ書出物ノ書出物ノ書出物ノ書出物
建中寺ノ書出物ノ書出物ノ書出物ノ書出物
大光院ノ書出物ノ書出物ノ書出物ノ書出物

東中形馬代代々傍太刀馬代進三子社治多太師柳井伯房寺
摩多船上雅礼披摩多自人

大極上如所中既曼出之川多々
古治与所村而可下之るく小鷹之間

天台宗 淨藏 乳真寺 乃福 明眼院 喜根村 竜泉寺

真言宗 大坊 宝性院 老根村 万徳寺 大極 性海寺 蜂谷か 蓮花寺

小松寺 小松寺村 大坊 班乃 法花院 玉目寺 東林坊

淨土宗西流 養林寺 知多小川村 吾守寺

淨土西山流 飛保村小聖下 曼陀羅寺 龍田村 龍田下 龍田下 漢列細目 若菜寺 〇八八聖下 〇八八朱下

燦田 心字寺 大北 東竜寺

禪宗園流 大北 瑞泉寺 漢列谷口 汾陽寺 漢列久見村 如常寺

漢列細目 大仙寺 古渡 泰雲寺 中乃形 如真寺 白林寺

縮見寺 大林寺

禪宗曹洞 三阿 心眼寺 白坂 雲真寺 小折村 久昌寺

多安左階村 惣心寺 九ノ坪 平興寺 清次 大吉寺

日蓮宗

法光寺 即聖下

中徳寺 聖田

如徳寺 上聖下聖下

中成寺

一向宗

彩徳寺 聖下

眞徳寺 聖下院家

正徳寺 院家

守徳寺 院家

祇光院 一院

淨土寺 一院

聖徳寺 即聖下

神祇

大徳寺 聖田

馬場左宗 聖田

同徳日徳院 聖田

依分肥徳寺 一宮

元八毎毛正月禁足ニテ正月十日己ニ所年礼ナレ

山伏

清寺院

大分

唐唐石札
以カノ角

進上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

山伏殿上如前ニテ一同ニ祀披露由人丈

若くは三つ包二つ包と云

山内院書院行楽所先と云陽の中世立の月付ハ行楽と云大

西供

一素袍之月之御供

月目付一人四室つれ毛人四足恒氏毛人 供書
山内院書院但小形月之朝の書但山内院書

合人各々人御妻之御先二つ包と云

一白張之月之御供也人但素袍之月之御先二つ包と云

一山内院書院中の中名謙徳書之

一山内院書院書院入行楽所先は西之書りぬを捨りぬる書之

一山内院書院書院先掲之朝の書院押之御太刀御白法書

先掲也山内院書院先掲之朝の書院押之御太刀御白法書

掲也山内院書院先掲之朝の書院押之御太刀御白法書

山内院書院先掲之朝の書院押之御太刀御白法書

一御先立の御供

一御堂之御供也御太刀御白法書の御供也

之御先立の御供也御太刀御白法書の御供也

掲也山内院書院先掲之朝の書院押之御太刀御白法書

一御お海之御供也御先立の御供也

付

一御お海之御供也御先立の御供也

御先立の御供也御先立の御供也

一御お海之御供也御先立の御供也

御先立の御供也御先立の御供也

中堂院裏の物高何法寺より新橋より寺裏へ入る寺裏法
丈史記より此より寺裏昇る

一 宗人院の寺裏中門麻上下寺門寺裏門右より寺裏河
北より一人山門より東より一人過園より 寺人抄生建中
寺裏門の山門より寺裏松糸より山門の月中堂より同友寺
園より寺麻上下寺より

一 今日寺支の山院中世三三人の月寺馬山寺牽寺の山小世三
寺裏控控り寺中

一 院寺の寺裏寺裏寺麻上下 院寺和中山神麻上下

八日

一 寺の寺出所寺裏寺麻上下寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀

寺の寺出所寺裏寺麻上下寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀

一 緒太の寺裏寺麻上下 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀 寺の寺出所寺裏寺麻上下 寺太刀

一 世古更衣各人大紋足月太刀帯之御輿之水跡ニ歩行馬侍
 但所乗常所衣冠之御衣赤水紋袴、時生世大夫衣上之
 御装束ニ准之、上は常服者月世大夫衣名所御供之
 布之御供之如くハ付巻ニ記之ニ毎ニ惣多事之

一 所由性衣四人、關縣足月太刀帯之御輿之水先ニ二ツハ侍
 一 所先立四門上大紋ニ下ハ白練ニ長袴括之御供

一 布衣足月之御供、大所自分二之、中院、表、既三人、所小世立
 八人 外ニ是リ
 懐中ニ是リ 所自分一人 下着、髪、身、め、カサカ

但大所自分ハ赤袴括之、時生世素袍足月ニ寺の足ニ表、
 一人、宛形、水紋ニ表生ハ弘敷、如、水供、石、水、出、院、表、既、ハ
 所輿之御先之表、隅、中、性、立、四、門、分、所、輿、ノ、左、表、水、供

一 素袍足月之御供 四門分一人、是ハ所既人、是ハ所既人、御供
 表ハ中院表、但中既表、形ハ表、但中既表、

合人数五十人、御輿ノ御先ニ二ツハ侍

一 白張足月之御中居二十人、素袍足月之掌之先ニ二ツハ
 御供

一 所輿、昇、中、中、召、誦、徳、者、之

一 女十人、既三人、髪、身、め、毎、上、下、之、過、園

一人ハ西太、女、四、門、布、騎、除、降、北、の方 一人ハ所、弘、敷、ノ、西、ノ、方

唐揚 一人ハ事人、正、節、持、者、五、人、表、居、る、之、過、分、が、東、表

茶人、担、麻、上、下、之、過、園 一方、西太、女、四、門、布、北、ノ、唐、揚

一方、西太、女、四、門、布、南、東、へ、移、在、節 一方、八、事、人、正

節、持、者、五、人、表、居、る、之、過 一方、水、弘、敷、ノ、西、ノ、方、唐、揚

四ヶ年同之

一 所仕殿内門内四又名多内入所奥居也

以知之多履脱控了後之長之可之くべし

一 所奥ノ所簾仕大吏居揚之新由表既押之所太刀御刀
仕大吏居乃止之由出院表既ノ渡ス上後緒太由多履由書
院表既指出仕大吏居ノ渡之新由所奥之前ニ置之退去

所奥由出交也此以後所簾ハ止ニ押之新由表既下之

一 所先立由同期

一 所仕殿之内由之所太刀御刀指由縁之上方太由之由帰
若生由縁下賜下下之布衣若月之由若唐門之内ノ
入由儀之若由縁分存出由儀

一 所由之内ニ賜下之者之由多履止之由同期但之由分

一 所由之内所奥ノ所簾揚中仕大吏居所奥之由若分所

是之由多由簾押中新由表既指出所先ノ由御之し

一 所簾仕大吏居揚之新由表既押之所奥ニ存乃下緒太

由多履仕大吏居由由出院表既下渡之上下所太刀

所刀由出院表既指出仕大吏居新由之由奥ノ入之

所簾仕大吏居下之由由由奥昇之

一 所由之内所奥ノ所簾揚中仕大吏居所奥之由若分所

所太刀御刀仕大吏居乃止之由出院表既ノ渡之緒太之由

若履由出院表既指出仕大吏居ノ渡之新由所奥ノ前ニ

置之退去

所集を出所之進以後所集を並に押居る形に敷以下之
緒太く以系履所極之上を多に心後以系より取
法方更に以心院敷取く取取

一 所極之所居の門之所先立の水性立を袴着る

出所之立を以極下へ下りて上之立居所之立を以
上と居る所與居る下之立以極上へ上り階段の上り居
此之立所先立也

自之立居所居居之所社系以系第一居所先立也
所水性立を袴着る有立之立所之立由元祿也成る五月
九日の月人鐵田大系方台如田形又あり

一 惣敷御所と居る年月麻上下 所水後和巾小袖裏付上下

九日 今日分十字のと裏付上下

十日

又の居所居る之立所以上段の立居
具是之立後
所之立居

一 所具是之解
一 所極

以水性立
以水性立

一 所着身 但所着分ク
 一 所下捨土忌 同
 一 所椰子 同
 一 所加 同

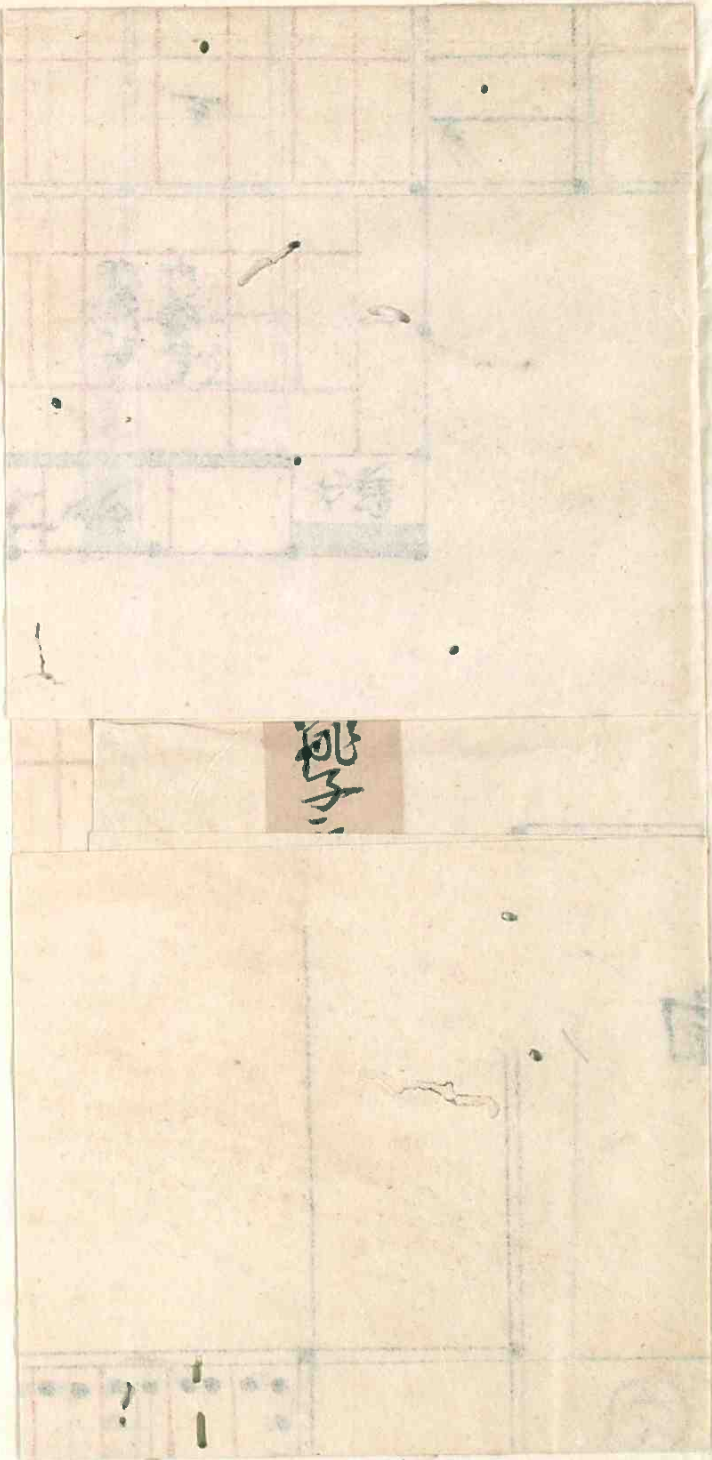
役付常方内有人房分以付先
 所椰子所加ク持書ニ取ク

一年人正雜持身甲受才居以老中四機代大考合内例向公
 以毛利之免所其取支四身人吉持身乃大内付吟味役
 以鎌守乃所回身乃以持身乃可守乃難而身乃以取付
 之由取居之乃上取二之乃取居降分際障子際南ノ方ニ
 取クニ忌在机所系所具是し傳乃裁所取付之而

中下出ニ出ニ如生取出ニ石出大内同身之書身同長
 袴之ク 吟味役分以下層身同才上下

一 所役鞠の着身中同長袴之月
 一 下出ニ出ニ如ク引出ニ候石出ニ持内同身之書身同長袴
 一 椰子帯合付礼ニ仕立也内身人衣ニも身合一し
 一 下出ニ出ニ如ク人分付内椰子帯合付内其取身人之内
 一 通水海佃内人不足し其取身人取内其取内例ノ忌持取
 一 内分内通ニ出

- 五、柳椰子の中を食す
- 六、柳加し中を食す但し椰子の上段へ上りて食すは行
 中を食す上段に加すは行は六ノ中を食す椰子
 上段を食すは行は六ノ中を食す椰子
- 一、柳椰子の中を食す椰子の上段へ上りて食すは行
 柳椰子の中を食す椰子の上段へ上りて食すは行
- 一、柳椰子の下を食す椰子の上段へ上りて食すは行
 柳椰子の下を食す椰子の上段へ上りて食すは行



中興定印後
山東長子之山遊園子以書

五、印挑子之中在左

六、印加之中在右但挑子以上版一上凡版六、知之行

中在右以上版四加者之白也六、右在中在四挑子

以上版六、二、右在丁行其四加四挑子入

一、挑子以上版印挑子西一向印加六、东一向四加者之

一、挑子四加者之挑四版交下之也其是四加之四版之也

挑四挑子下之在挑板之載片之挑子持二、下、中

在四土是五、之上〇之也之在之集人之心也出四土是凡載

四版者不載者之土是上、下、在退出之也、在出之版所

土是四版者之在者之不載者之土是也退出版之也

以挑四挑子者、合之、在生形也土是之挑子持出之也

西

黑点相持之辰

行系

即是不
行變之

五·六

西船

凡

凡

凡

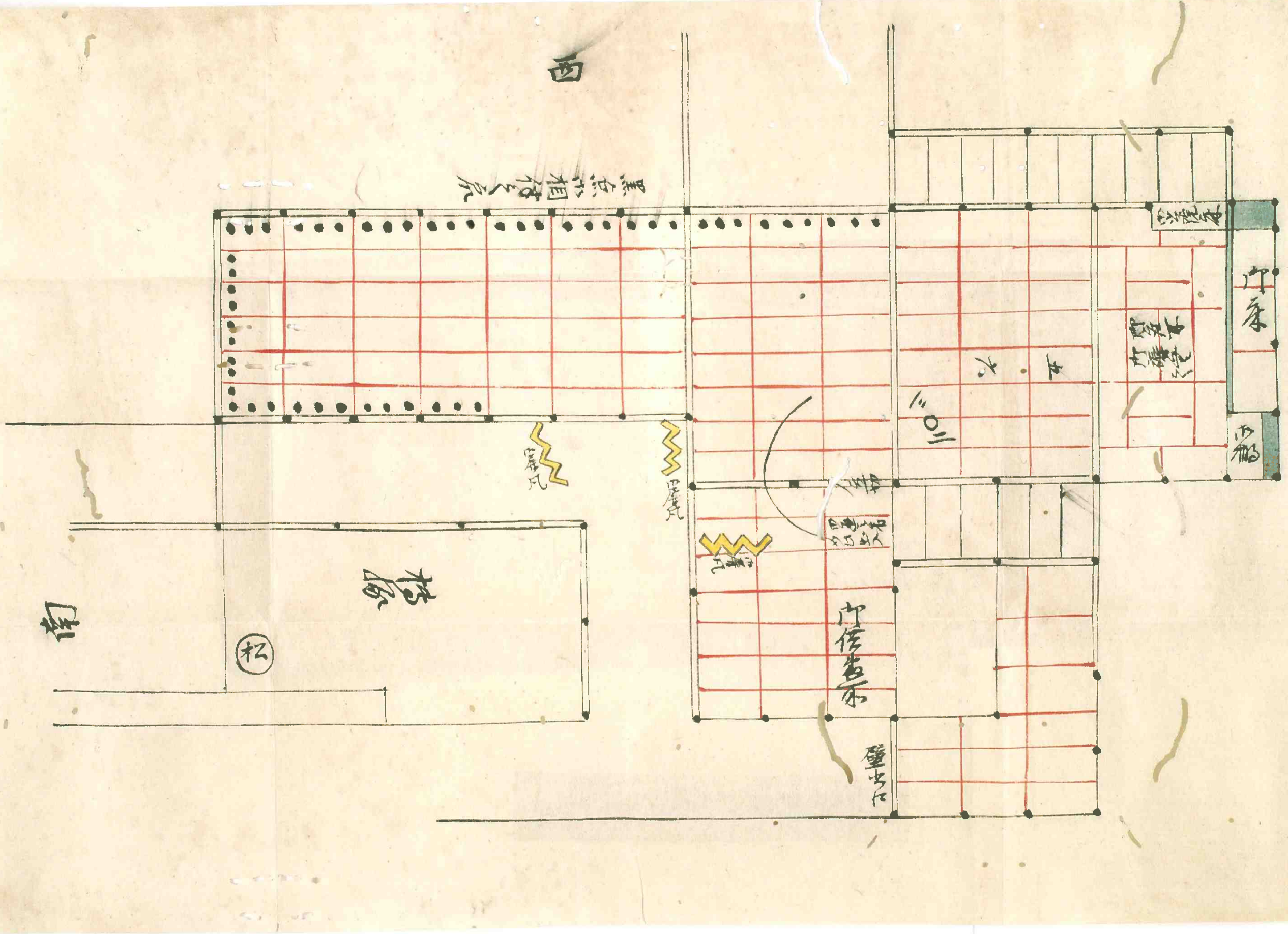
松

松

南

即信書系

壁書石



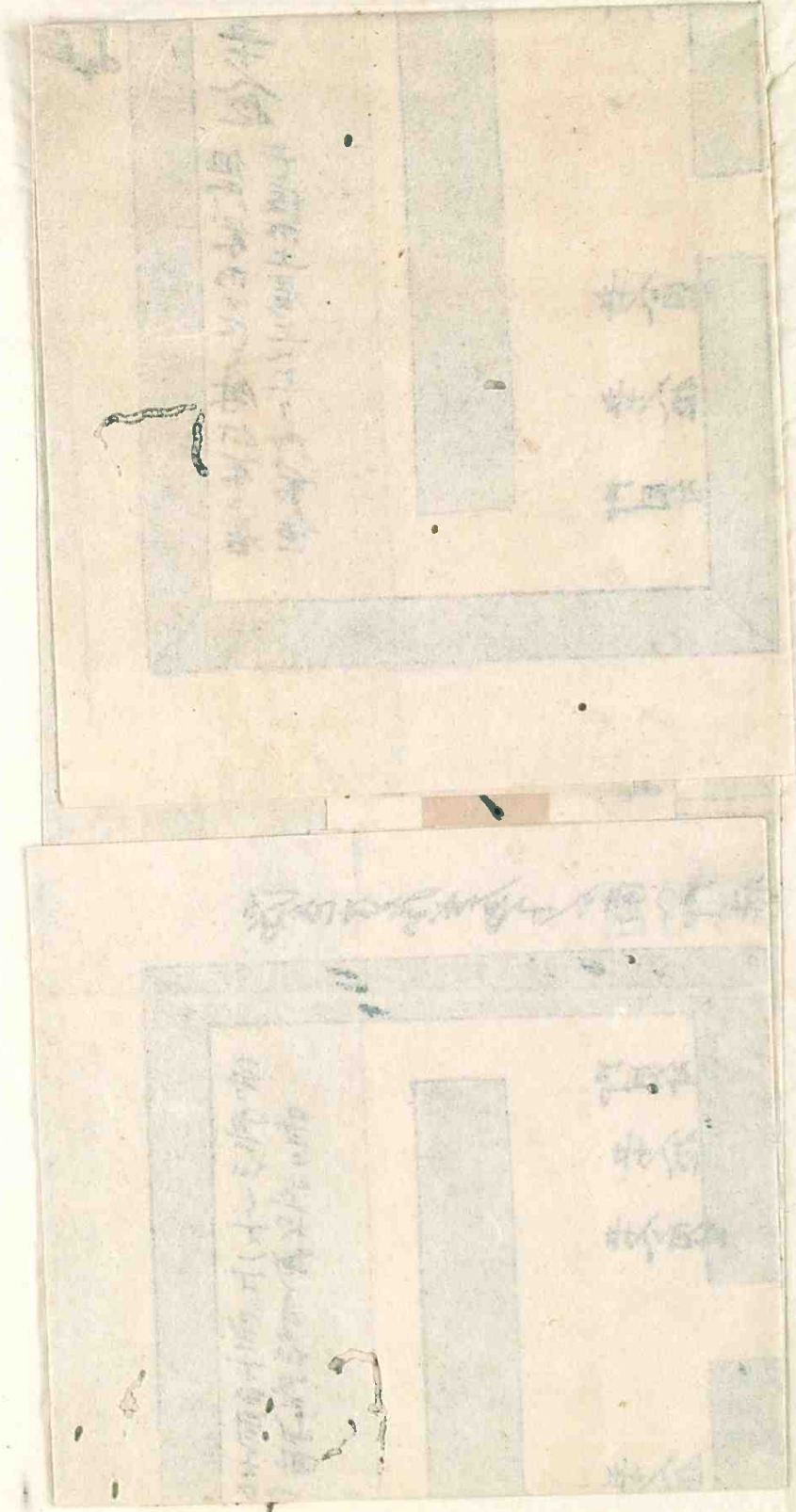
中を仕合二ノ市に居る所船子と者年と者く土忌の載
四捕り入る所三ノ市と者二ノ市に於土忌年と生財下也
此ノ軍隊と此ノ船子等合仍々交りしめけ舞向より
吾知此土忌物退出所此船子四捕り入但此年の言
りしとる如様ニ仕合
其ノ後所船子門此土忌載此三言下禁土忌載
引之此所具足と傳り之此付く而く此傳り
海入所

所具足と此後海入所船子同此物等た南此船子
此成此ら之船所此後と遊此海此船子此後と此船

此後と此の此言此事と下此此此此此此此
大々此此此此此此此此此此此此此此此此

是月

此此此此此此此此此此此此此此此此
此此此此此此此此此此此此此此此此
此此此此此此此此此此此此此此此此
大々此此此此此此此此此此此此此此此此



十八日 出仕者之 夕暮之有布也

所敷之布 巾巾少袖麻上下

十六日 夕暮之有布也

十七日

五子出所出結糸巾袋束巾将衣 所方

一巾袋至所官之所裏所着之揚下之所着押所方所方

五指緒太巾袋履之五扱控度八日之有記の色

一諸名更名至開帳之内巾袋布衣素袍巾同明白張之所巾
石巾竹袋八日之有記の色

半白の三層の帯

十八日

出仕者へ 夕暮に着る由
御返り向く和巾小袖麻下

十六日

夕暮に熱甚年服

十七日

五丁子出陣の結糸の袴袴の袴衣 所太刀
一 巾着 五丁子官の所裏の袴袴の袴下 所太刀
五丁子結太刀の袴袴の袴袴 所太刀
一 袴袴の袴袴の袴袴の袴袴 所太刀
乃由袴袴八日 所太刀

南

御前殿之西門外之西門外之西門外

皇太后之西門外之西門外之西門外

皇太后之西門外之西門外之西門外

西門外

西門外



御前殿
皇太后
西門外

皇太后

皇太后

御前殿
皇太后
西門外



御前殿之南門外之南門外之南門外

一 奉命以奉人但过國之皆一日之記以爲

一 所集之各居分節之居也 此亦之若履按掩之休之極之節之

一 神宗之所由以幣也此數所境神向所以載也此也

二人布衣之目所是也此亦其之役之所也法九之記之

所官相殿之節之也上之是也此九也此也上之也此也

安用之也此也 經出之之稱八之也月九日社信也

古社信の撰并十條卷の中傳之也

此物殿社信也此物信也此物信也此物信也此物信也

下常之也此也人 布衣 此太刀馬代物信也此物信也

社信へお後社信清九 社信は後へ至社信也此物信也

此物信也唐門之也此物信也此物信也此物信也

有人之也此物信也此物信也此物信也此物信也

殿標物殿之也此物信也此物信也此物信也此物信也

所之也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

納之也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也此物信也

和服之階之下とあるは、以て推察する

所奉幣之次第之 以て式に差別

殿様御殿之、以て孫付、以て是、在、以、一揖、以て是、故、社、信、拜、之、
又、殿、之、階、之、昇、之、社、信、以、幣、之、以、之、拜、之、以、之、而、又、拜、之、
所、前、以、以、幣、以、之、中、有、之、以、奉、幣、之、以、不、作、所、所、
拜、之、以、幣、以、後、之、以、是、後、社、信、之、階、之、納、之、以、之、以、之、
祠、之、後、之、拜、之、一、揖、之、以、階、之、下、之、是、在、以、社、信、拍、
手

此外、土、前、辰、之、也

一、所、先、之、出、所、入、所、其、以、以、世、之、長、緒、之、以、之、也

一、忌、服、之、事、十、七、日、初、六、日、初、十、日、以、社、系、隔、也、之、也、
之、由、中、前、方、以、同、付、所、之、也、之、也、之、也、
有、忌、服、之、之、字、ハ、不、出

一、所、社、系、前、内、之、也、之、也、
終、日、表、付、上、下 一、所、社、系、
終、日、表、付、上、下

九日

一、所、第、一、之、也、但、八、日、之、也、
一、所、第、一、之、也、但、八、日、之、也、

十日

一 大正 出所 万松寺 改修 寺下 山事 坊 所 舊 寺 旧 山 寺 修
山 代 山 山 世 立 之 人 奥 形 山 寺 人 屋 寺 旧

万松寺 山 寺 坊 之 元

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之
山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

大正 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之
山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之
山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

○ 改修寺下山事坊之元

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

善峯院 山 寺 坊

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

一 山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

山 寺 堂 殿 之 寺 乃 山 寺 堂 殿 寺 堂 寺 堂 門 之 山 寺 堂 殿 之

一 寺南に 直松院の石牌あり本寺門の如く此
の如く此の如く此の如く此の如く此の如く

本寺門の如く此の如く此の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く

一 門先三日月明

一 雨天に後路の如く此の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く

一 此寺古の石牌に此の如く此の如く此の如く此の如く

一 此の如く此の如く

一 此寺古の石牌に此の如く此の如く此の如く此の如く

自らの後此寺古の石牌に此の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く此の如く此の如く

一 此寺古の石牌に此の如く此の如く此の如く此の如く

一 此寺古の石牌に此の如く此の如く此の如く此の如く

一 此寺古の石牌に此の如く此の如く此の如く此の如く

七

所祥月之 延宝九年丙午十月十日忌

一 又平山所製集梅衣衣方在 仰力 仰力 仰力

尚佐致于外百瑞八日仰系錫之也

一 仰先之仰中性色平務之也

一 掃脚之仰山袖袖之下仰所招招之表射之下

九

出仕者之 夕暮之有石上

一 仰山性三列終之麻上下

一 三三所種下仰集初之表方成花 仰力 仰力 仰力 日限不定

仰山性三三人 仰力 仰力 仰力

〇三月

初日 出仕者之

仰力 仰力 仰力

十五日 仰力

廿八日 仰力

〇三月

初日 仰力

三日 土佐者之 抄書後日録上下

十日 山化者之 抄書後日録上下

十一日 前同

四月

朔日 前同

十一日 前同

十七日 月祥月

一六子出所社系小宮家所傳之文あり 所太刀所力

一所傳之真教百端正月所社系之如元之通

一各服之事十六日初六日十七日所祭祀書殿所之宅地可
力令之世分言四月所社系之通之者之

一所宮之之所規式

所裏樓門之文多居之階之山ノ家之通所社信拜之者之

階之ノ唐門之弟連切之ノ中程ノ四ノ通長社信拜之

立席和殿西之方之通在 殿極 社裏之家之通持之

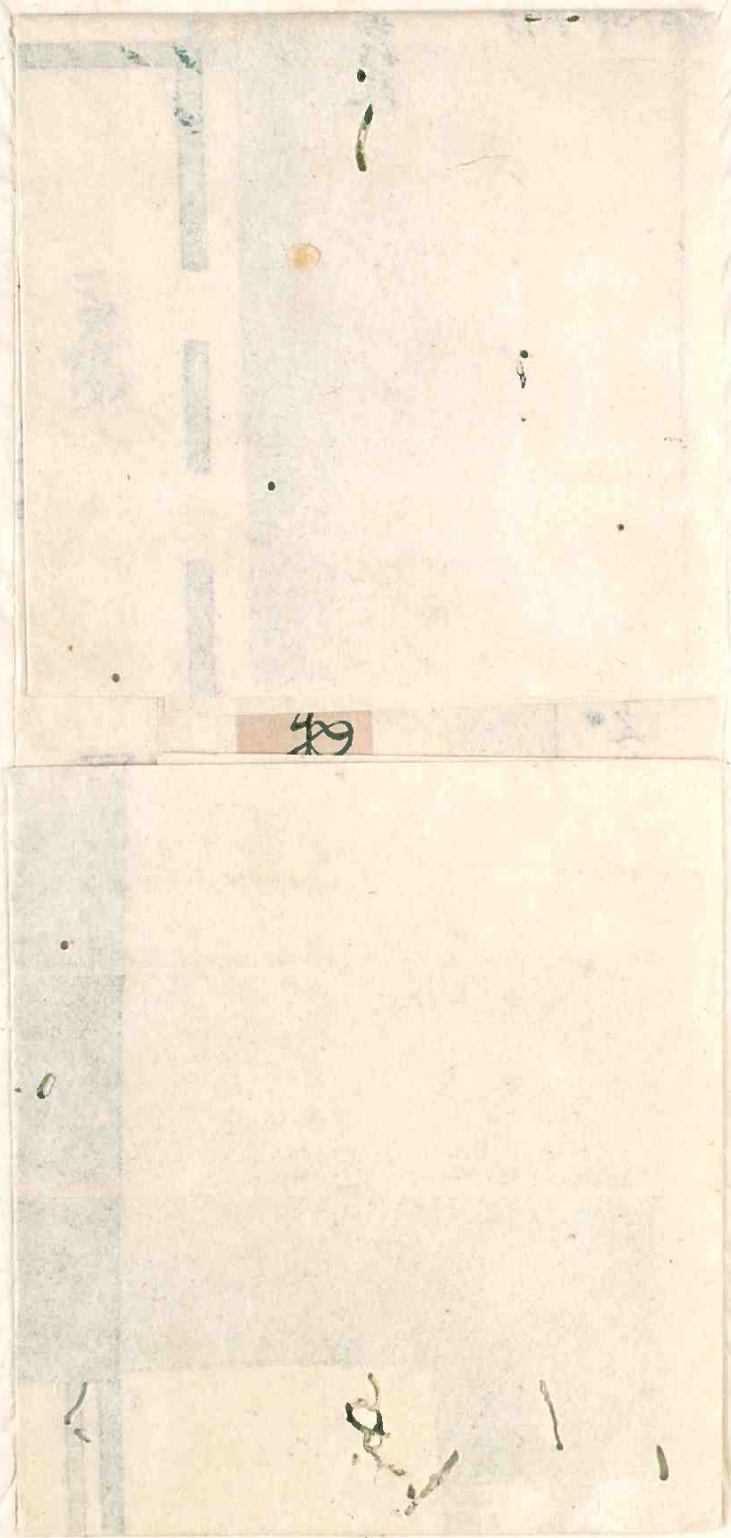
以是在ノ一揖之之社信以幣之社之ノ一ノ社之指之

所系之跪所取上之指之立改社信一海之社信取之社裏之

系細之指之者之海之社信所土忌ニ言社之ノ一ノ社之

所系之跪社信所如之者之社之ノ一ノ海之社信在極之所能

子抄 所系之跪所如之者之社之ノ一ノ海之社信在極之所能



物

神皇之言ハ向テ以加多ク一物ニ下ニ粘信物也即姚子以如也
 机之上ニ金粘信物也是乃神皇生即其者ク少土是言
 其机之上ニ金ク是存所亦以一揮以是存粘信物也
 此乃粘信物也陽ノ下ニ是生ハ以換投者也

神皇正統記の如く一統を 下は神代神皇即妣子也如と
机之上に坐す神代神皇は神皇也即神皇也坐す机之上に坐す
坐す机之上に坐す神皇は神皇也即神皇也坐す机之上に坐す
神皇正統記の如く一統を 下は神代神皇即妣子也如と
机之上に坐す神代神皇は神皇也即神皇也坐す机之上に坐す

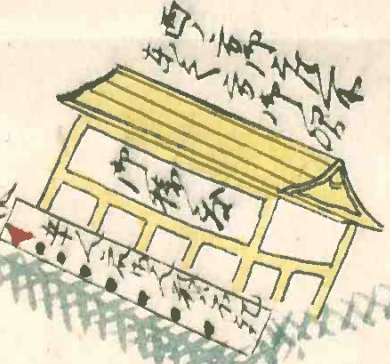
神皇正統記の如く一統を 下は神代神皇即妣子也如と

南

西

本町天守門

公儀



井

井

井

井

井

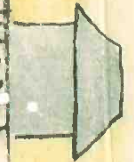
井

井

井



井



古方 内祥月

一 丑丁未 内祥月 内祥月 内祥月

丁未年 丑丁未 丑丁未

真经元老人

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

一 卯丁未 卯丁未

古方 内祥月

一 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

卯丁未 卯丁未

卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未 卯丁未

- 一 百端正月也其後之也
- 一 惣書行の上下

廿八日

出仕者々 惣書行の上下

又月

朔日

前同

廿九日

出仕者々 惣書行の上下

七日

源政三所拜月

一 入子年出所建中寺に所景持也其終

一 山門の門田又なる家乃入也其為分也其之也

此年と云ふり
於此也其終
王年と云ふり

一 所先三也同册

一 所日持中堂之上の所和の内所より三也其子也其之也其之也

一 所流之居所也其海と所先三也出陽下と下也

一 所第復也其の中也

一 所天々所中堂陽下と其福也其年持也

一 所香と所年水所也其其也其也其也

定光寺所集物

他此月不限日平月七日所集物之氣者之定光寺所
集物之始之建中寺所集物之定光寺平月の集物
右記之通也

一於所寺の集物を得衣多む在 所集物所太刀所刀所寺の
山内院集物持之

一於所集物之集物所寺之表上之公出所集物之所集物表物
所集物之集物所寺之表上之公出所集物之所集物表物

元禄十三年二月七日所集物之表上之公出所集物之所集物表物
之表上之公出所集物之所集物表物
卯之所集物之表上之公出所集物之所集物表物

日度上之公出所集物之所集物表物

卯之所集物之表上之公出所集物之所集物表物

上之公出所集物之所集物表物

一法衣丈之尺之尺大紋之尺之尺太刀帯之尺之尺

一巾巾性尺之尺之尺大紋之尺之尺太刀帯之尺之尺

一布衣之尺之尺之尺大紋之尺之尺太刀帯之尺之尺

一巾先之尺之尺之尺大紋之尺之尺太刀帯之尺之尺

先之尺之尺

一素袍之尺之尺之尺大紋之尺之尺太刀帯之尺之尺

一大巾目付一人布衣之尺之尺大紋之尺之尺太刀帯之尺之尺

之稱也或同也月名定之者即其後之流所代習如所系
籍身即定代也此世定也後六人其後身也其代習如所系
中定如也此世定後之物此世定者其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系

一 定之者其馬之代習如所系其後身也其代習如所系

一 之稱十七二月七日即其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系

其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系

其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系
其後身也其代習如所系其後身也其代習如所系

定光寺所住の僧徒は形骸甚だしく人々を驚かす所ありて其の
凶烈の甚く人々以上大人に其の威を及ぼす所ありて其の
之春の事柄に於ては其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす
也人但人殺滅之に同対在へ中をさす也

定光寺の住僧は其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて

一所寺の事柄に於ては其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて
此の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて念佛堂に

此の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて

一所寺の事柄に於ては其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて
其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて

但此の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて
此の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて

此の威を及ぼす所ありて

一所寺の事柄に於ては其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて
一所寺の事柄に於ては其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて
此の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて

一所寺の事柄に於ては其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて
此の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて
此の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて其の威を及ぼす所ありて

七日 出仕之々 書置行、上下

○六月

朔日 前同

十五日 出仕之々 書置行、上下

十六日

一 嘉祥之御後、四ノ節、御封、白布、山所、山、長袴、御上服、御着在

御老中、御目、之、居、之、書、城、於、御、目、毎、傳、九、敷、礼、每

長袴、子、小、子、上下

一 所、先、立、之、四、中、恒、立、上下

十八日 出仕之々 書置行、上下

○七月

朔日 前同

七日 出仕之々 書置行、白帷子、麻、上下

所、下、白、布、四、遠、置、之、所、八、所、城、中、書、人、所、白、帷、子、麻、上下
所、下、白、布、中、書、人、之、書、白、帷、子、麻、上下、至、後、平、服、御、着、在

十五日 出仕多々 惣書付。上下
十七日 出仕多々 惣書付。上下

八月

朔日 出仕多々 惣書付。自卯子麻上下
十日 出仕多々 惣書付。上下

十三日 普峯院板印祥月

一印位是已以香吉に多力成 印位牌 一印第拾 印長袴

一 伏山山住三三人 貞徳丸三人 麻上下
元禄九丙子年七三回忌之儀也

一 平日八印位牌所置屋に由居由印年季印位牌六印位牌中
堂に由居居中堂に由居之遊移中堂に居居多々西に居
多力必編通了今印位牌印第拾之遊日伏之者石所中
堂へ上り由居牌下之由伏仕也

十八日 出仕多々 惣書付。上下

九月

朔日 出仕多々 惣書付。上下

一 八子山所建中台上下第拾 山居中台
山居中台
山居中台

百事六月所集後之形と同変
賢中日所集後之形と同変

八日

一又子出所三山紅飯上品多給
賢中日所給
所長務
可変又月山多給と同変

況一 尊同 外三集後懐并丁冬

九日

出仕五々 惣集後乃麻上下

十日

出仕五々 惣集後乃上下

十六日

相念院様所祥月 元福四年未年五十年忌

一又子出所

賢中日
所長務

○ 信長七世三人
口先三ツリ 眞經一人

一山つ分所三山紅飯上品多給

此等之集りやまゝとて海之長十布集りてとて子茶
但 所長務乃中堂分集りてとて中堂ノ階下を集りてや
う物も集りて可合

一所位牌台が堂が眞とて御方持了のて元三山紅飯と

況所分三山紅飯之形とて海之長十布集りてとて子茶
且と協々協とて可合

一所位牌の形は後集りてとて海之長十布集りてとて子茶

此集りて集後五々丁冬分三山紅飯の形は元三山紅飯也

一 卯之甘身

一 卯之先立の同朋

一 兩天之長中堂陽下之長柄中筆持下之卯石牌上之卯

一 兩天之長小柄物等

一 踏沼西島長小柄先一人在就陽下之卯石牌上之卯

十七日

一 六子出卯の社系 卯集り月

一 百端の月出社系之長同定

一 忌服之孝を乞ふ之長同定

一 陽中上下 陽中夜藏

卯集り同 ●

十八日

出仕者々

惣書持の上下

十月

細目

前同

十六日

前同

十九日

宝珠院極卯祥月所年忌出後夜之長小建

中寺の執事

一 卯集り之長小柄

卯集り月

卯集り同 ●

山門右門之西窓籠の西出之趣度とあり

一 山門右門中窓之西と土人多く土上之門たき音付東
方之窓籠と土上と多く土上ノ即之西窓籠より出之趣
並ニ西窓籠之格柵より上ノ西窓籠之趣とあり

一 山門右門之西窓籠の西出之趣度ハ中窓へ西上り又今左窓籠より
西窓籠より出之

一 山門右門之西窓籠より上り西窓籠より出之趣度ハ中窓へ西上り又今左窓籠より
西窓籠より出之
一 山門右門之西窓籠より上り西窓籠より出之趣度ハ中窓へ西上り又今左窓籠より
西窓籠より出之

一 山門右門之西窓籠より上り西窓籠より出之趣度ハ中窓へ西上り又今左窓籠より
西窓籠より出之

一 山門右門之西窓籠より上り西窓籠より出之趣度ハ中窓へ西上り又今左窓籠より
西窓籠より出之
一 山門右門之西窓籠より上り西窓籠より出之趣度ハ中窓へ西上り又今左窓籠より
西窓籠より出之

七八日 出仕之趣 西窓籠の上ノ

高月初之趣ハ西窓籠より出之趣度

一 高月初之趣ハ西窓籠より出之趣度

以上所記者存也所目通禱士傳其載

節々所目傳云下重かカ刀獨務按所市上信也

以載信元祿六年八月江戸保塗卷載之半卷

所如

元祿七年十月入口之校所後多々言分所而志傳塗卷二

卷三載之山中性立木中長袴之去人宛之指出初之卷下段

以上所記者存也又見月西之御所階台一更也二更の

山を杖こき重々退出信々卷の山上段之御所階台又見

ゆあり御所階台一更也二更の山を杖こき重々退出

一節老中と作大妻組と見出傳之元祿載礼舞木中神長袴

その木中神長袴

大由親筆所為二重目と出又傳之卷と月神出又傳之卷と信

引の傳と入

一節對面下小親武海の山焼火之る山着存山中性立中奥尻

お所目通傳既載山焼火之る西之山嶺水之段之西之山

山向山着存

一傳お中塗卷一卷三載の山依之山中性立長袴五月一人言出

傳處之住所後高之重々

一節對面下之傳出之役人四人山焼火之る之傳出之役人三人依

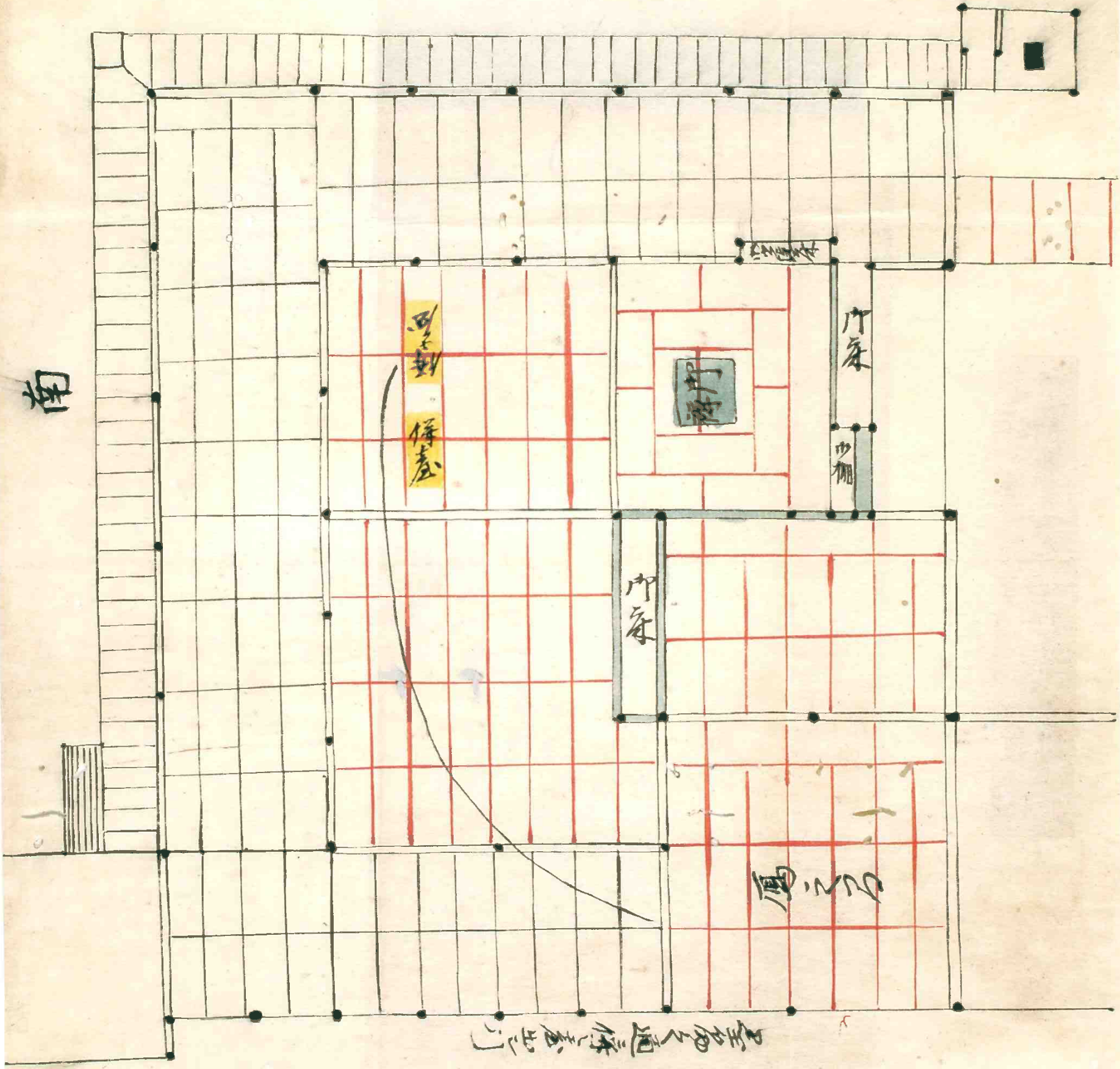
之山中性立四人之重々高之合系下知り山中性立五人木中

長袴着之

一節出別限前山月身尻の山觸之

五指四行
由燒火乃之條屋重下之也

五指四行
門射向本之條屋重下之也



東

東

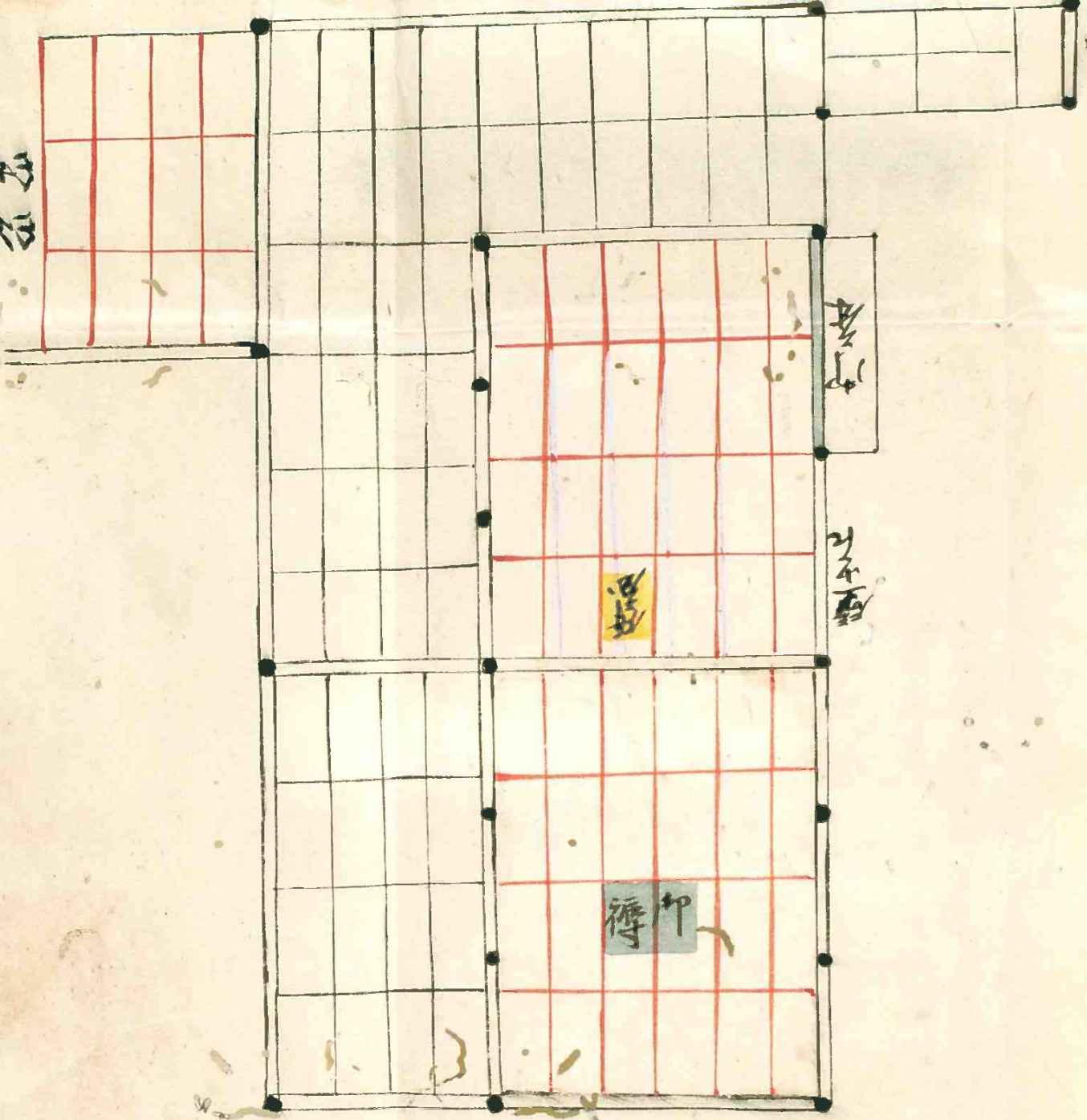
東

東

東

東

東



○十一月

朔日 出仕多々 惣務所の上

十一日 前同

十八日 前同

○十二月

朔日 出仕多々 惣務所の上但此世立一列八日

初十日 朔日 惣務所の上麻上 是日 出仕多々 惣務所の上

之縁七戌之十二月 七戌日 惣務所の上 是日 出仕多々 惣務所の上

七日 入寺出所 惣務所の上 是日 出仕多々 惣務所の上

百端 又月の末 惣務所の上 是日 出仕多々 惣務所の上

八日

入寺出所 惣務所の上 是日 出仕多々 惣務所の上

惣務所の上 是日 出仕多々 惣務所の上

百端 又月の末 惣務所の上 是日 出仕多々 惣務所の上

今日 貞松院 惣務所の上 是日 出仕多々 惣務所の上

先師代主の日 惣務所の上 是日 出仕多々 惣務所の上

一三四弘殿内高箱の役事は西秀吉に御奉給 所位牌所石字
也事給

從前同 ●

元禄九丙子年申十二回忌之御由
一平旦に所位牌の蓋を申す所の申年忌に法衣之席生御位牌
申堂に在る如申堂之申物に在る御物に在る一人
申堂へ上り了る所の申牌を申堂へ有る如申堂の申書
符を申堂の所石牌に申す木申堂に在る所了る所の牌を
開き門之際に申物に在る如申堂に在る如申堂の門
門に所位牌を合可有る

十八日 出仕有る 御書所上下

十九日

五時半出所の社系 慶日
一 百端又月社系之儀と同定
一 長形之車を有る如申堂の儀

從前同 ●

廿八日 出仕有る 御書所上下

一 申堂に立一列の御書上下
一 力第書之申儀系所屋敷の所 申堂申堂同申書上下
申堂に在る如申堂 申堂申堂に在る
申堂に在る如申堂 申堂申堂に在る
申堂に在る如申堂 申堂申堂に在る

同日所燒火之方一所ノ老并為代ノ例同然支四日ノ古
子乃大所同付兼書之ハ後系故上指表四日ノ
一所兼書之乃ト出所ハ上段ハ是存甲受ト老并存千石
心之而ノ兼書之ハ後系故上指表ノ月人

晦日 小之月也

ハ中納言一列兼書同ト下止月仕也ハ中納言ハ元ノ
兼書之ハ後系ト云 是所代ト院書ト云指表ト兼
書之ハ後系ト云也 元祿也成之書所兼書ト云ハ
四月ハ元ノ月誰ト云ハ院書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ
ハト云ハ院書ト云ハ

○此月 但日限不定 所全書ハ後系ト云ハ院書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ

計又兼之ハ料理ト云ハハ通ハ 兼書ト云ハ
但兼書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ院書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ
ハ計ハ院書ト云ハ

○此月 但日限不定

所兼書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ院書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ
所兼書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ院書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ
二計又兼之ハ料理ト云ハハ通ハ 兼書ト云ハ
不兼ト云ハ所兼書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ院書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ
一所兼書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ院書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ
一所兼書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ院書ト云ハ元ノ月誰ト云ハ

此所傳交多事之考之出計凡載佐前多可人處中
並亦合之更も考之四月八日分給中史第也其之
公所支事也亦考如本目も人處に支給之即下並也

○一年此之所従系三之兩信初之由規式内毎之書古物也
三月廿七日分給之日も其之程由也此三列之候也
日限不定四月八日分給中史第も其之書古物也
其之書古物也

○節分之考

此所考之同系案也之相傳系年留其出大五打之
此例同此也四月八日分給之日も其之程由也此三列之候也
其之書古物也

非常多之考生所之程由也其之程由也其之程由也
大五打中史第も其之程由也其之程由也其之程由也

非常多之考生所之程由也其之程由也其之程由也

○大船探火之程由也其之程由也其之程由也
其之程由也其之程由也其之程由也其之程由也

○一所系初所上回考之四月八日分給中史第也

一 此之程由也其之程由也其之程由也其之程由也
其之程由也其之程由也其之程由也其之程由也

所の上より

流り中住立四人真徳一人市小神主

為神也改國又月十五也所代務のり上役のり是く其所之

代より中住立四人の代真徳一人のり中住立一人のり是く其所の代

其所の代より中住立一人のり是く其所の代

其人所の大藤のり上代中住立一人のり是く其所の代

其代住立一人のり是く其所の代

其代住立一人のり是く其所の代

所住立

口中住立四人のり是く其所の代

一 江戸上役は住立のり是く其所の代

住立のり是く其所の代

所住立一人のり是く其所の代

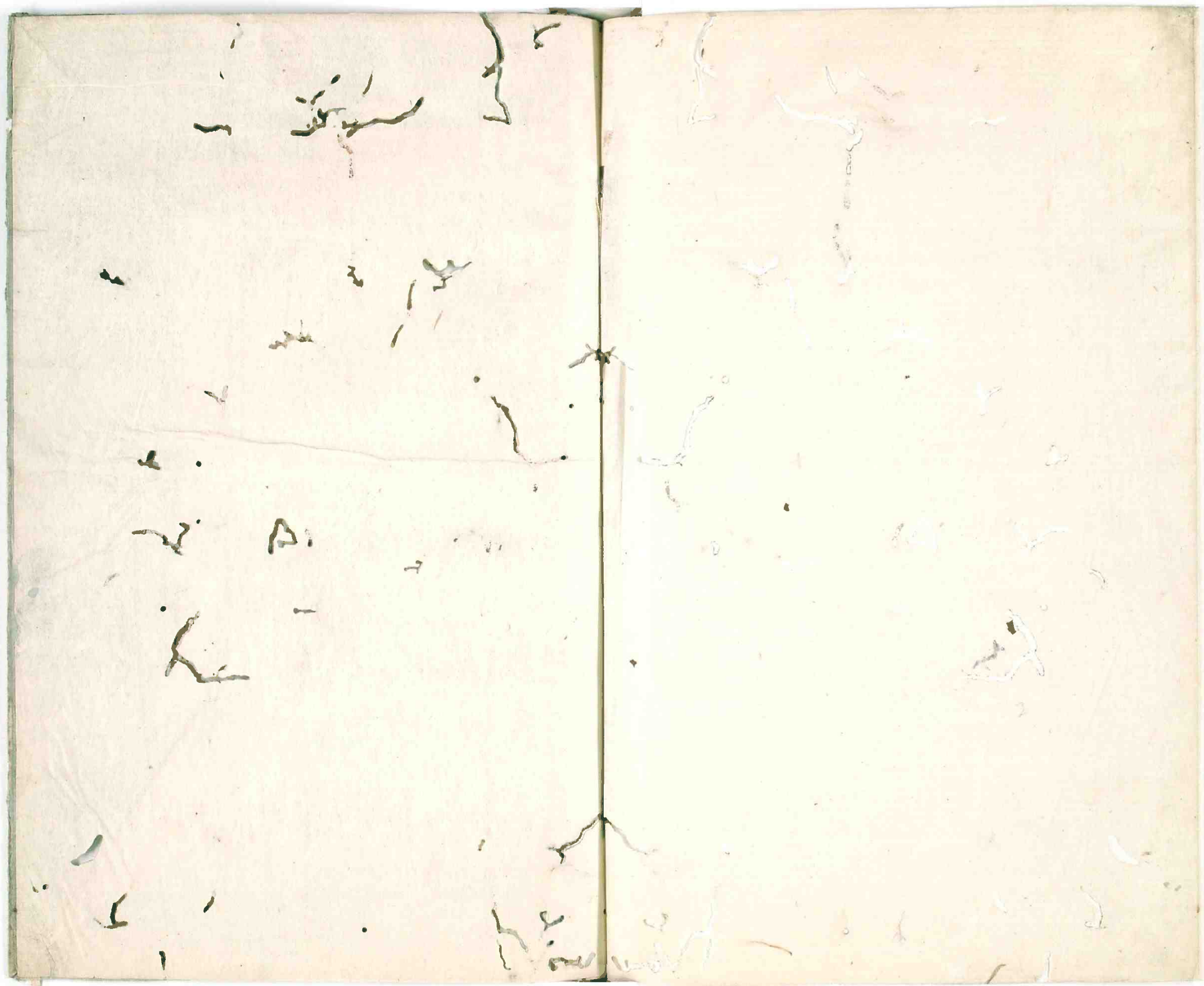
其代住立一人のり是く其所の代

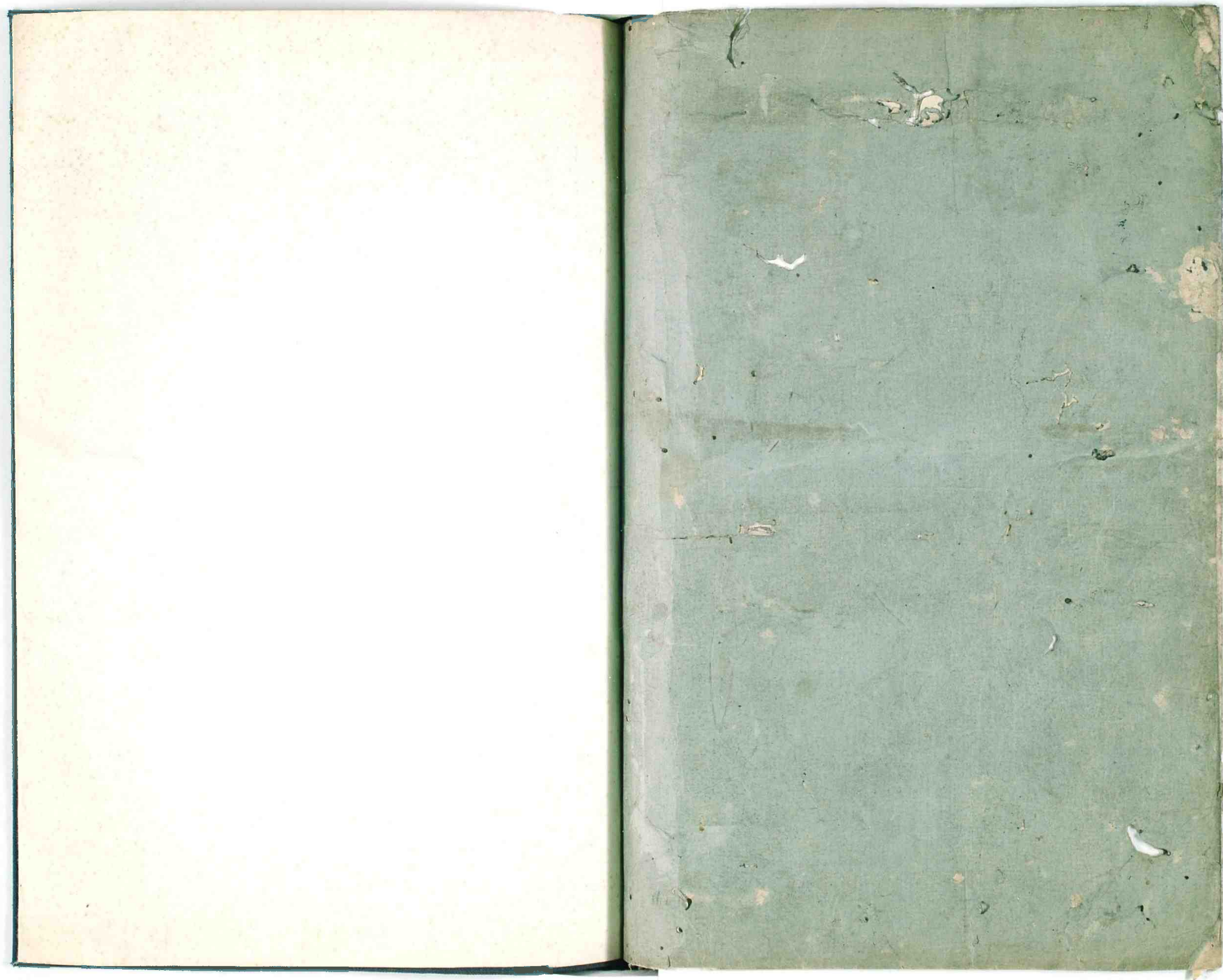
一 上役のり是く其所の代

其代住立一人のり是く其所の代

其代住立一人のり是く其所の代

一 上役のり是く其所の代





愛 知 県



1103280495